

芦屋市スポーツ推進実施（原案）に係る市民意見募集（報告）

1 募集期間:平成30年12月17日(月)～平成31年1月26日(土)

提出件数: 13人 15件

2 意見及び市の考え方

取扱区分:A(意見を反映) 0件, B(実施にあたり考慮) 5件, C(原案に考慮済み) 1件, D(説明・回答) 9件

人数	No.	該当箇所	頁	市民からの意見(全文)	取扱区分	市の考え方等
1	1	ライフステージに応じたスポーツの推進	31	<p>障がい者といっても、知的・身体・精神と障がい特性は様々なので、1つの障がい特性のみに注目したスポーツでは、楽しめる人が限られ、結果、多くの人に参加してもらえなくなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者のためだけの(障がいがある方のみしか楽しめない)スポーツではなく、健常者と障がい者がいっしょに楽しめるスポーツにしていこう。 ・広く参加してもらうため、広報活動に力を入れる。 ・参加しやすいよう、機会を増やすこと。 ・障がい者だけではなく健常者も参加できるものにしてほしいです。 	B	<p>ご指摘の課題があることは認識しております。「する・みる・ささえる」スポーツの多面的な視点からスポーツに関わっていただきたいと考えています。</p> <p>また、障がいのある人もない人もともに参加できるプログラムの実施に努めてまいります。</p>
2	2	スポーツ文化の推進	35	<p>第4章について 貴景勝の優勝はとてインパクトありましたが、お祝いのたれ幕など、市の反応が遅かったと思います。興味を持っていますよ！のアピールはとて大切だと思うので残念でした。</p>	D	<p>芦屋市出身の力士として活躍している貴景勝関は見ている人に感動を与えていただいています。このたびはお祝いの作成に時間を要しましたが、今後はタイムリーな対応に努めてまいります。</p>
	3	芦屋市スポーツ推進体制	40	<p>第5章について 競技スポーツ以外のレクスポーツ、健康スポーツ、障がい者スポーツは将来的には一元化してよいのではないかとおもいます。一元化できるような柔軟なとらえ方(文化)が育っていけばより実りあるのではないのでしょうか。</p>	D	<p>芦屋市スポーツ推進体制の項目ですが、行政が「あしやスポーツフォーラム」を推進し、市民に対して支援していく図となっています。ご指摘のような捉え方もできると考えますが、本計画では、各スポーツの特性に応じた支援ということに着目して考えています。</p>
	4	ライフステージに応じたスポーツの推進	31	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者とひとくりにすることの難しさ。 ・三障がいでは、できること、できないことが異なる。また、障がいとくられることに抵抗がある。 ・障がい者スポーツとひとくりにするよりも誰でもたのしめるスポーツ、バリアフリーなスポーツという考え方を浸透させていくこと。 ・三障がいをもつ方、そうでない方もふくめて混合チームでたのしむ機会が必要だと思えます。 ・アート作品展のように市全体で大会を開催する。 ・バリアフリーなスポーツのお祭りというコンセプトで室外では参加しづらい人たちも多いので室内競技がよいのでは。またオリンピックイヤーの前に、パラリンピックの種目でがんばっている選手をクローズアップして下さい。学校で呼んだり、すばらしさを間近で感じるのがいちばん理解への早道だと思います。 	B	<p>ご意見のとおり、障がいのある人のスポーツの推進については、今後、関係機関と連携して、理解の促進と実のある展開を図っていきたくと考えています。</p> <p>また、トップアスリートの存在は大きいと考えており、オリンピック・パラリンピックイヤーを有効にスポーツ推進に活かしていきたいと考えています。</p>
3	5	ライフステージに応じたスポーツの推進	31	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいを持っている方々の意見を反映していくこと ・スポーツを通じて、多様さを受け入れる機会になればよいと思えます。 ・11月にふれあい運動会が開催されているが、障がいをもった方々だけの交流にするのではなく、一般の方や児童も参加してもらうことで相互理解を深める場にしてはどうかと思う。 	B	<p>障がいのある方々のご意見の反映に努めます。「ふれあい運動会」については、相互理解を深める交流の場としてまいります。</p>

人数	No.	該当箇所	頁	市民からの意見(全文)	取扱区分	市の考え方等
4	6	ライフステージに応じたスポーツの推進	31	<ul style="list-style-type: none"> ・芦屋市の障がい者スポーツ大会として「ふれあい市民運動会」があるが、種目も少なく、また各種目もあまりチャレンジングなものではない。よりチャレンジングな種目を増やし、大会1回ぼっきりのものではなく、クラブ活動やサークル活動などにつながっていくよう継続的な取り組みにしていくべきだと思う。 ・バリアフリーが必要だと思う。「障がい者スポーツ」という枠組みを取り払うような活動が重要ではないだろうか。 ・一般的なメジャーなスポーツ競技を、ハンデやアシスト付きなどの措置を施して、健常者も障がい者も一緒に楽しめるイベントを増やしていけばよい。 ・競技会の開催や、クラブ・サークルの運営、アシストをする人々の育成などに力を入れるべきだ。また、そのような活動を作り出していけるような人材を登用もすべきだろう。 	B	「ふれあい市民運動会」については障がいのある人もない人も多くの方が交流できる場として開催しています。競技内容については主催者と今後も協議してまいります。障がいのある人の競技スポーツとしては、兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会への参加を進めております。
5	7	ライフステージに応じたスポーツの推進	33	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者スポーツを実施する施設・場所・機会がない。 ・させる指導者がいない。 ・「障がい者スポーツ」枠を作らずに、健常者の中に混ざってできるとよいが…。 ・定期的な、施設・場所・機会の提供。指導員の配置。また、その情報提供。告知。 ・障がい者施設・作業所に対する研修会の開催。指導員の派遣。 ・スポーツ大会の開催。 <p>障がい者を特別扱いせず、広く市民全体に対するスポーツの普及指導を実施し、その中に抵抗なく障がいを持った人も参加できるような土壌作り。とりあえず、各スポーツクラブ21の中に障がい者スポーツ実施枠を設けスポーツ推進委員等が、指導に回っていく。スポーツクラブ21ごとに違う種目を行うのではなく、同じ種目を広めていく。年ごとに種目を変えていく。などする。</p>	C	障がいのある人にとって、スポーツの施設、場所、機会が少なく、指導者がいないことは、市としても認識しています。研修や大会など関係機関と協力して進めてまいります。 また、地域スポーツクラブとも協議を行い、障がいがある人ない人も参加できるようにスポーツの普及に努めてまいります。
6	8	ライフステージに応じたスポーツの推進	33	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者スポーツを実施する場所・指導者がいない。 ・身体・知的・精神に分かれ、卓球大会、風船バレー大会などが芦屋市であればいいと思う。 ・定期的に使用できる場所・指導員・大会等。 ・積極的な情報周知。 ・学校との連携(小・中・高・大) <p>施設の中で、卓球をやっています。できれば、小学校、中学校、高校、大学等とふれあい卓球大会などをやってほしい。</p>	B	ご指摘の問題点があることは認識しており、課題の解決に努めてまいります。 各種大会の開催については、関係団体や関係機関と検討してまいります。
7	9	その他意見	-	<ul style="list-style-type: none"> ・[原案]作成時、障がい者を含む会議を開いて欲しい。 ・福祉センター体育館に、サウンドテーブルテニス(STT)が単独でできる時間を作って欲しい。 ※他のスポーツと一緒にの時にはピン球の音が聞こえない為。他市は実現しています。 ・「吹矢」を福祉センター体育館で開いて欲しい。 	D	<p>次回の策定時には障がい団体等の方にも意見等を伺ってまいります。</p> <p>福祉センター運動室は、多くの市民の方や登録団体をご利用されており、サウンドテーブルテニス単独での時間を設けることは困難ですが、貸室としてご利用いただくことは可能です。</p> <p>吹矢については、関係団体と協議してまいります。</p>
8	10	その他意見	-	<p>ブラインドテニスをするための場所と、指導者の育成を希望します。</p>	D	関係団体と実現が可能かを協議してまいります。

人数	No.	該当箇所	頁	市民からの意見(全文)	取扱区分	市の考え方等
9	11	その他意見	-	<p>2010年より知的障がい者を主に、風船バレーを月1回福祉センターで行ってきました。当初知的障がい者がルールを理解し、楽しむ事に疑問をもっていました。数回行う事でルールを理解、又、ゲームを楽しむ、相手に勝つ事のうれしさをみつけました。指導という面で障がい者スポーツ指導者の方々のおかげでケガもなく続けています。費用の面で全て育成会負担となっていますので行政からの何らかの補助でもらえないか、又、より多くの障がい者が参加してもらえる様な策がとれないのかと考えています。会員へは毎月の通信で、一般の方へはホームページで参加を呼びかけています。</p>	D	<p>障がい団体への補助金につきましては、市から包括的に支出しておりますので、個別事業について補助することは困難であると考えています。</p> <p>また、より多くの方に呼びかける方策につきましては、関係機関とともに検討してまいります。</p>
10	12	ライフステージに応じたスポーツの推進	14 15 17 20 31	<p>(1)本計画では、その主眼として次のことを掲げている。</p> <p>?・「市民一人ひとりが、それぞれの年齢や体力、目的や好みに応じて、いつでも、どこでも、気軽に運動・スポーツを継続して実施できる」こと</p> <p>?・「すべての市民、スポーツ団体、学校・大学、行政等が参画し、さええ、連携・協働を推進し、あしやスポーツ文化を創る」こと。いずれももつともなことだが、行政としての目標は前項におくべきだろう。その視点から意見を述べたい。</p> <p>(2)「運動・スポーツ実施の阻害要因」という項には、次のように述べられている。</p> <p>?・「成人の運動・スポーツ実施の阻害要因をみると、『家事が忙しい』の割合が最も高く、次いで『身近に施設がない』、『勤務時間が長い』、『経済的にゆとりがない』の割合が高くなっています。」</p> <p>?・「子どもの運動・スポーツ実施の阻害要因をみると、『テレビを見る時間やゲームをする時間などが多く、外で遊ばなくなった』の割合が最も高く、次いで『勉強・塾などに忙しくて時間がない』、『遊んだり運動したりする場所がない』、『社会環境の変化(交通事故、犯罪等)に伴い、外は危険である』の割合が高くなっています。」</p> <p>?・「障がい者スポーツの普及・推進のために必要なことについてみると、『身近なスポーツ施設のバリアフリー化を進め、利用しやすくする』の割合が最も高くなっています。」</p> <p>上記の事情は「この1年間に行った運動・スポーツ種目をみると、『散歩・ウォーキング』の割合が最も高くなっています。」「運動・スポーツを行った施設の利用状況を見ると、『道路』の割合が最も高く、次いで『公園(河川敷等)』、『自宅(庭・室内等)』の割合が高くなっています。」という実態(手軽に、短い時間でも、特別の施設・設備がなくてもできることの比重が高い)にも反映されている。</p> <p>(3)また次のように、市民の意見も報告されている。</p> <p>?・「スポーツ行政への要望についてみると、『地域で身近に利用できるスポーツ施設を整備する』の割合が最も高く、次いで『各種のスポーツ教室やイベントを開催する』、『スポーツの情報サービスを充実する』、『野外のスポーツ・レクリエーション施設を整備する』の割合が高くなっています。」</p> <p>?・「社会人にとって平日活動するということは仕事が終わってからということで屋外施設のナイター設備が少ないということが致命的である。」</p> <p>?・「市民だけではなく行政がバックアップし、施設の開放や施設の充実に協力すること」</p> <p>(4)ところが、このように分析したことが、具体的な計画内容にはほとんど盛り込まれていないのはどうしたことだろうか?《ライフステージに応じたスポーツの推進》の項には【重点分野】として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○幼児・子どもが楽しめるスポーツの推進。 ○成人・家族が楽しめるスポーツ環境整備。 ○健康長寿のシニアを増やす。 ○障がい者の実施者を増やす。 <p>が掲げられているが、【具体的施策】のなかには、「運動・スポーツ実施の阻害要因」を克服するような内容がほとんど見当たらない。</p> <p>?@、主として市民全体(一人ひとり)の努力や営みに関わるものとしては</p> <ul style="list-style-type: none"> ○幼児の運動遊びを推進する。 ○児童・生徒の体力向上を推進する。 ○幼児・児童・生徒において、運動・スポーツ好きを増やす。 <p>(次ページへ続く)</p>	D	<p>「運動・スポーツ実施の阻害要因」については、『家事が忙しい』や『身近に施設がない』、『勤務時間が長い』、『経済的にゆとりがない』などの時間と場所が課題であると認識しております。</p> <p>このことから、ライフステージに応じた短時間でやることのできる運動を周知し、主体的・継続的に楽しめるスポーツを推進していくこととしております。</p> <p>施設の整備については、用地や財源の確保等の課題もあることから、新設について具体的に明示するのは難しいことですが、阻害要因を少しでも解決できるように取り組んでまいります。</p> <p>また、体育館やプールの指定管理者制度については、民間事業者の専門知識やノウハウを活かしてサービスの向上とコスト削減を目的として実施しており、行政の責任を後退させるものではないと考えています。</p>

人数	No.	該当箇所	頁	市民からの意見(全文)	取扱区分	市の考え方等
10	12	ライフステージに応じたスポーツの推進	14 15 17 20 31	<p>?A, 主として各種グループ、諸団体など、一部に行政が取り組むこととしては</p> <ul style="list-style-type: none"> ○スポーツクラブ 21 における成人や障がい者の会員を増やす。 ○障がい者が楽しめる教室やイベントなどを開催する。 ○障がい者や健常者が共に楽しめるインクルーシブなプログラムを推進する。 ○女性が身近で手軽に楽しめる教室を充実する。 ○ファミリースポーツの教室やイベントなどを開催する。 ○成人が予約なしに単発で参加できる教室を増やす。 ○成人が職場や通勤で楽しめるキャンペーンやプログラムを推進する。 ○幼児・児童・生徒及び成人の健康を増進する運動・栄養プログラムを開発する。 ○健康長寿を促進する運動・栄養プログラムを開発する。 ○あしやスポーツマップを充実する。 <p>?B, 行政固有の責任・役割に関わることとしては</p> <ul style="list-style-type: none"> ○歩きやすいウォーキングコースやジョギングコース及び自転車専用レーンなどの整備を進める。 <p>が、それぞれ列記されている(引用者が?@, ?A, ?Bに分類してみた)。</p> <p>【重点分野】として掲げられた「成人・家族が楽しめるスポーツ環境整備」のための行政施策に 当てはまるのは?Bの1項くらいであり、しかも後の具体的事業計画には、これについての記述がない。</p> <p>?B, 行政固有の責任・役割に関わることとしては</p> <ul style="list-style-type: none"> ○歩きやすいウォーキングコースやジョギングコース及び自転車専用レーンなどの整備を進める。 <p>が、それぞれ列記されている(引用者が?@, ?A, ?Bに分類してみた)。</p> <p>【重点分野】として掲げられた「成人・家族が楽しめるスポーツ環境整備」のための行政施策に 当てはまるのは?Bの1項くらいであり、しかも後の具体的事業計画には、これについての記述がない。</p> <p>(5)せつかくの「推進計画」であれば、直截に「運動・スポーツ実施の阻害要因」を克服し、市民の要望に応えたものになってほしいと痛感する。時あたかも12月議会では、市立体育館の指定管理者を芦屋市体育協会から営利企業に、市民プールの指定管理者を水練学校から営利企業に、それぞれ変更してしまった。「市民一人ひとりが、それぞれの年齢や体力、目的や好みに応じて、いつでも、どこでも、気軽に運動・スポーツを継続して実施できる」ことへの、行政責任を大きく後退させるような「計画」であってはならない。</p>		
11	13	ライフステージに応じたスポーツの推進	31	<ol style="list-style-type: none"> 1. 障がい者がスポーツできる施設整備 <ul style="list-style-type: none"> ・ 総合公園で車椅子競技ができるグラウンド整備 ・ 車椅子テニスができるコート整備 ・ 視覚・聴覚及び健常者が共にできるクライミング整備 2. 障がい者スポーツ指導員の養成 (兵庫県障害者スポーツ協会と連携をする) 3. スポーツ吹き矢など障がい、高齢者が共にできる競技の普及 4. スポーツをする障がい者の紹介を公報あしやなどとする。 5. 身体障がいにならないで、知的・精神・引きこもりなど積極的にスポーツを勧めるチャンス。 6. 車椅子プレイヤーなど招待して競技を見せてもらう企画を (プレパラリンピックイベントとして) 	D	<p>施設整備につきましては、用地や財源の確保等を踏まえて進めていくべきものと認識しています。</p> <p>また、指導員の養成等については関係機関等と連携し、スポーツ推進に努めてまいります。</p>

人数	No.	該当箇所	頁	市民からの意見(全文)	取扱区分	市の考え方等
12	14	ライフステージに応じたスポーツの推進	31	<p>障がい者スポーツのハード面の整備が出来ていない。芦屋市で何をすべきか、真剣に考えていただきたい。特に車椅子スポーツでは</p> <ol style="list-style-type: none"> 陸上競技場が全天候性に早急に改修 車椅子テニス、ハードコートの整備 小学校・中学校の体育館や芦屋市体育館での車椅子競技が可能なようにするべきです。 車椅子マラソン競技車両の使用条件の変更 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 視覚障がいのボルダリング選手が芦屋市におられると聞きました。利用可能なんでしょうか？ 兵庫県海洋体育館を完全バリアフリーにする計画が必要 障がい者団体の方にお聞きしますと障がい者スポーツ指導員会は知らない、当事者が知らない団体の存在とはなんですか？ ふれあい市民運動会でスポーツをやっているような記載は誤魔化しです。あんなパン食い競争に何の意味があるんですか？ ちゃんと競技できる施設が無いのでお茶を濁す程度の企画しかできないんです。 パラスポーツの普及をやらない！できない自治体「芦屋市」は恥ずかしいの一言です。 潮芦屋のミズノスポーツで車椅子テニスを拒否されたと議員さんのブログで読みました。こんな会社に芦屋市の資産を貸しているのはおかしいです。 そもそも、この計画には障がい者当事者が関与していなかったということです。そんな計画は1度白紙に戻し、当該団体との協議をするべきでしょう。こんな理不尽な計画を認めることはできません。 	D	<p>施設整備については、用地や財源の確保等を踏まえて長期的な課題であり、広域的な取り組みも合わせて検討する必要があると考えています。また、行政にとって多くの課題があると認識しております。ご批判も多数あることは承知していますが、今後も関係機関と連携して、障がいのある人がスポーツに参加できる環境の整備に努めてまいります。</p>
13	15	ライフステージに応じたスポーツの推進	31	<p>女性として世界で初めてエベレストの山頂に立った登山家・田部井淳子さんは、運動会でよい思いをしたことがなかったそうです。運動が苦手だった田部井さんですが、それでも一生続けられるスポーツを、という思いである山岳会に入った。そしてそこから、一生続けられるスポーツどころか自分の人生をも見出した。田部井さんは「登山は競争じゃないから私に向いている」と言っておられます。勝つためにスポーツ選手が努力をするのは自然なことですが、そのために中央政府や地方政府が前に出る必要はない。スポーツ推進の視点から各政府が、ここでは芦屋市が目標とすべきことは、極めて基礎的かつ単純なことで、体を動かすことが好きな人を一人でも多く育てることです。オリンピックでの獲得メダル数が思わしくなくても危機ではありませんが、体を動かすことを億劫に思う人が増えることは恐るべき危機です。田部井さんに倣って、競争しなくてもスポーツ、運動は楽しいということにみな気がつくように後押しし、体を動かすことが億劫な人を一人でも少なくする。目標はこの一点と言ってもいいし、ここにはやはり、各政府の後押しが必要となります。</p> <p>それではなぜ体を動かすのが億劫な人が増えるのか。これを考えると、「スポーツ推進」といった狭い範囲にいただけでは何も見えてこない。私は現在71歳の団塊世代ですが、サラリーマン時代のほぼ30代に、会社に草野球チームを作って、西宮の草野球リーグにも参加していました。当時、野球場を確保するのは大変なことで、吹雪のなかで試合をしたのを憶えています。また、脱サラしたほぼ40代は、近くの気の合う人たち数人で毎週のように週末テニスをしました。この当時も、希望する時間帯にテニスコートを獲得するのは大変なことで、抽選会場は人でいっぱいでした。</p> <p>さて、私たちの子の世代である団塊ジュニアたちは、我々団塊世代よりも少し少ないのですが、それでも大きな人口の塊りを作っています。このことから考えると、我々団塊世代と同程度に個々人にスポーツへの需要があったなら、今のように、野球場やテニスコートががら空きになるようなことはないはずなのです。中央公園の野球場は休日でもよく空いているし、下水処理場屋上のテニスコートはずっと前に閉鎖されました。団塊ジュニアあたりから急激に、体を動かすのが億劫な人たちが増え始めたのではないかと私は思っています。</p> <p>我々の時代には「いじめ」はなかった。少なくとも私の周りにはなかったと断言します。学習や運動で優劣が生ずるのは仕方がないことですし、はっきり言って「どんくさい」のもいりましたが、絶対に仲間外れにはしなかった。ところが、団塊ジュニア世代が小学校に入るころから、「いじめ」の問題が大きな社会問題になり始めた。なぜここで「いじめ」を取り上げるのか、関係ないではないかと思われるかもしれませんが、「運動嫌いと体育授業」と入力して検索してみてください。</p> <p>(次ページへ続く)</p>	D	<p>団塊ジュニア世代以下の方の運動嫌いを克服する必要があるとのことご意見を踏まえ、身近なところでスポーツに接することのできる環境の整備は非常に大切なことであると認識しています。六甲山を背山とする芦屋市は日本におけるロッククライミングの発祥の地とされており、登山やハイキングについては本計画においても芦屋らしいスポーツとして位置づけているところです。今後もライフステージに応じたスポーツとして推進に努めてまいります。</p>

人数	No.	該当箇所	頁	市民からの意見(全文)	取扱区分	市の考え方等
13	15	ライフステージに応じたスポーツの推進	31	<p>わんさかと出てきます。そのなかから投稿を一つ拝借してコピーします。「苦手でも強制的にやらされ、クラス内カーストの固定化を促すだけの体育の授業は素晴らしい。あれのおかげで球技を嫌うことができたのだから。」もちろん「素晴らしい」はこれ以上ない嫌味、いや非難です。本人が目的意識を持ってその達成のために児童生徒に無理を強いるなどあってはならない。私も小学生になると草野球や草相撲はよくやったし、体育でも、球技はよくやった。もちろん、何をしても勝ちたかったし負ければ悔しかったしかし、上から先生が何かを強いるというようなことはなかった。少なくとも小学校まではスポーツではなくて遊びです。体を使った遊びの楽しさを覚えればいいのであって、「体力づくり」と大人の頭にあるものをちらつかせてはいけません。そんなものは結果としてついてくる。投稿に「クラス内カーストの固定化」とあるのは重要で、運動嫌いを作る体育授業は「いじめ」を生み出す学校というものの代表的な一面なのです。運動嫌いを学校が作っている。問題は「スポーツ推進」といった狭い範囲を超えていると言ったのはこのような意味からなのです。それでも希望はある。ある投稿は「やらされる体育のマラソンは嫌いだったが、50になってから一人で走る楽しさを覚えた」と書いています。団塊ジュニアより若い世代の、体育授業によって植え付けられた運動嫌いを救済することはまだ可能だということです。「走る楽しさ」だけでもいいのです。「芦屋ならではのスポーツ」とか「スポーツミュージアムコーナー」とかは枝葉末節に過ぎない。ついでになるかもしれませんが、団塊ジュニア以下の世代を運動嫌いから救済するのに、極めて困難な高いハードルがあります。低体温の人たちが増えていることです。体を動かすのが億劫→不活発→低体温→体を動かすのが億劫という循環が出来上がってしまった人たちは「走る楽しさ」を覚えるのは容易なことではないのです。そして、このような人たちは、膨大な生活習慣病患者の予備軍を形成しています。今は顕在化していないだけの巨大な危機です。この問題はなおさら「スポーツ推進」の範囲を越えています。医療を含めた根本的な対策を求めます。さらにもう一つ言いたいことがあります。「運動・スポーツ実施の阻害要因」のなかの「忙しい」「施設がない」「情報不足」など言い訳であって、すでに書いたように「体を動かすのが億劫だから」が本音です。運動が好き人は忙しくてもなんとかします。施設も余っているし、情報も自分で探します。役所がしゃしゃり出る必要はない。しかしながら、「経済的にゆとりがない」は気になります。ジョギングやハイキング程度ならお金などほとんどかからないはずですが。私が思うに、運動など考える余裕さえない、そこまで苦しい人たちがいることです。地方自治体どこでもそうなのかもしれませんが、芦屋市には貧困対策はないですね。貧困の実態についての情報さえない。無関心なのです。ほんとうに苦しい人たちは声さえない。従って、耳を傾けるべき市民の声のなかに、このような人たちの声はない。国民の声を聴きすぎた結果、今は国民には含まれていない将来世代に、生涯所得の半分以上の負債を押し付けるようになってしまったことに、国民が無関心であるのと同じです。この深刻な問題が、芦屋市の「スポーツ推進」を大きく越えた問題であることは明らかです。しかしだからこそ、「スポーツ推進実施計画」は自らの限界自体をはっきりと発信しなければならない。</p> <p>最後に我田引水をします。ウォーキング、ゴルフ、テニス、ペタンク、ダブルダッチ、ジョギング、サイクリングが、なぜ芦屋ならではのスポーツなのか理解できませんが、芦屋には天然の施設、宝物があります。山です。芦屋のどこからでも、ほぼただで山歩きがすぐにできる。私は、年30数回、六甲摩耶をトレッキングします。健康のためではなく楽しいから続けているのです。健康のための山歩きというより山歩きのための健康です。適度な運動がいいと聞きますから、私のトレッキングは過度で、健康にはよくないのかもしれない。競争はない。マナーを守らないのは困りますが特にルールなどない。一人で行くのもいいし家族でハイキングもいい。仲間といっしょもまたいい。半日の軽登山でもいいし弁当持参の日帰り登山も楽しい。私のように険しいコースを選んで歩くのもいいし、野の花を見たいから行くというのもいい。歩きながら駄句の一つを吟ずるのもまたいい。最初、大勢の尻にくっついて風吹岩あたりまで行ってみる。それから徐々に行動範囲を広げ、自分の体力との兼ね合いを見ながら、好きな山歩きのコースやスタイルを創る。このあたりのことが楽しくなったらしめたものです。長く続けられる。特に、団塊ジュニア以下の世代に勧めたい。まだ間に合う。自分より年配と思われるご婦人が、とんでもない胸突き八丁を一人黙々と登っておられるのに出会うと感動します。後ろ姿からしてすでに人生の達人です。もう一度田部井淳子さんの言葉をお借りします。「お買い物に行ける人だったら登山は誰でもできます。」</p>		